

市民と議会との語る会実施報告書

日 時	令和 3 年 7 月 29 日(木) PM 3:00 ~ PM 4:00
会 場	あいぱーく今立 大会議室
出 席 議 員	小玉委員長、中西副委員長、大久保(健)委員、題佛委員、 川崎(悟)委員、前田(一)委員
参 加 者 (市 民)	12名(男性: 12名、女性: 名)
開会挨拶・ 司会・報告・記録	挨拶:小玉 司会:中西 記録:題佛
【1部】 和紙組合から概要説明	和紙組合(五十嵐理事長) ①和紙組合では、平成31年から産地振興プロジェクトとしてブランディング委員会をつくり、越前和紙のロゴマークを確立した。和紙を誰にどのように売 るのかを検討し、「あなた好みの和紙を作る」をテーマに活動している。 ②市の予算により、アーカイブ事業として、web でアクセスする人が、求めている和紙をどこで漉いているのか、メーカーごとにどういった紙を作っているのか、一目でわかる事業に取り組んでいる。 ③後継者育成事業としては、県市の事業「伝統工芸職人塾」を活用して後継者育成にあたっている。
【2部】 意見交換会	Q(組合):和紙組合としては、ユネスコ登録に向けて活発に活動をしているが、越前生漉鳥の子紙保存会としては、登録に向けた研修施設が無い ため、パピルス館等を空いている時間帯に利用している。登録に向けては技術の継承が目的であることから、なんとしても研修施設の支援をしていただきたい。 候補となる場所と建物は確保しているので、リフォームにかかる費用の支援をお願いしたい。 A(委員):要望として、理事者と議論、検討し、委員会としても支援していきたい。 Q(委員):鳥の子紙の今後の利用や需要の見通しをどのように考えているのか。 A(組合):日本の技術を守るために、文化庁が予算を出して進めており、組合としては、需要の有無に関わらず、鳥の子紙を守っていききたい。 また、雁皮紙は、様々なところで利用されており、レンブラントの版画や、近年では名古屋城修復の折、金箔を貼る紙として使われている。

Q(委員):鳥の子紙保存会として、後継者育成をどのようにされているのか。

A(組合):現在の会員は、正会員は8名、準会員は15名、研修生は4名である。
後継者育成は、準会員が正会員から指導を受けているが、勉強するにも座学というわけにはいかず、現場での実作業を通して工程指導を行っている。

Q(組合):越前国府の位置問題が確定していないが、市としても国府の調査をしていただきたい。

A(委員):市としても、文化財を大切にしたい取組をしているが、文化財をしっかりと保存していくことや保存場所が分かりやすくするためにも、市に要望をしていきたい。

Q(組合):旧福井銀行岡本支店跡地を個人で買い取り、美術館にする予定になっていると市長から説明があった。説明の中で、市から助成金が出ると聞いているから、要望をするが、跡地は紙の博物館と隣り合わせになっていることから、連携のために、平垣の撤去、側溝を暗渠にすることで、両方の駐車場が使えるし、行き来がしやすくなると思うが、どのように考えているのか。

A(委員):委員としては、初めて聞く話なので、何とも言えないが、市からの予算が出てきた段階で精査し、組合の皆様にとって良い方向で考えていきたい。

Q(組合):和紙の里通りのせせらぎ川は、昔は砂防ダムから水を引いていたが、水が汚れていることから、現在は止めているため流れていない。水が循環していないため景観が悪いので、考えていただきたい。

A(委員):和紙の里の玄関口のせせらぎに水が無いのは景観が悪いので、しっかりと市に要望をしていきたい。

Q(組合):越前和紙を公共施設にもっと取り入れてほしい。

A(委員):県産品を使うことになっているが、設計段階で越前和紙を取り入れるよう要望をしていきたい。

Q(組合):新幹線駅に堀木エリ子さんのデザインを採用することになったが、どのような経緯で入ることになったのか。議会で予算審議はしているのか。

A(委員):予算審議はしているが、使用までは審議していないので、今後、調査

していきたい。

令和 3年 8月 5日

越前市議会議長
川崎 俊之 様

産業建設委員会 委員長
小玉 俊一